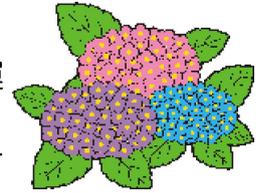




希望の花

鶴ヶ島市立西中学校
学校便り No.3
令和7年6月30日
文責 校長・真武公司

雨に悩まされることの多い運動部の大会ですが、雨予報の隙間を縫って予定どおりの日程で学校総合体育大会の予選会が実施されました。運動部に所属する生徒にとっては、中学校部活動の集大成となる大会です。各部ともに善戦しました。男子バスケットボール部が3位入賞、そして陸上部の3000mと走り幅跳びでそれぞれ1名が県大会へ駒を進めることになりました。



競技なので非情にも勝敗はついてしまいます。結果がどうであれ、これまでの取組に満足感や成就感が得られているといいなと思います。そして、その競技人生がここで終わりではなく、中学校での経験が高校に、更には生涯にわたってその種目に携わろうとする礎となって繋がってほしいと願っています。

今、中学校の部活動のあり方が岐路に立っています。部活動の始まりは明治の学制発足まで遡るといわれ、今日まで脈々と歴史を刻んでいます。現行の学習指導要領（学校における教育活動とその計画の基準）には「教育課程外の学校教育活動」と示されています。つまり、必ずしも設置する必要がない活動なのです。一方で「異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高い」とも記されています。この教育的意義は誰しも実感していることで、多くの大人は中学時代のよき思い出として部活動について語れると思います。

しかし、その運営を教員のボランティア精神で支えてきたことが、制度を維持することを困難にできてしまっています。夏の時期、西中学校の部活動終了は17時45分、下校時刻は18時です。教職員の勤務終了時刻は16時50分なので、部活動指導に当たる教員は少なくとも1時間10分の時間外勤務をすることになります。しかし、このための手当はありません。土曜、日曜、祝日に3時間程度の部活動を行うと、時給換算で900円程度の手当が支給されます。練習試合等で活動時間が長くなった場合でも増額されることはありません。他校に出向いた場合も、移動のための旅費は支給されません。このような状況を手当で解決しようとすると莫大な予算が必要となります。



学校における働き方改革も相まって、部活動の担い手を地域へ移行しようとする動きが進みつつあります。今年5月に発表されたスポーツ庁・文化庁の有識者会議の最終報告書に「2026年から6年間を『改革実行期間』とし休日、平日ともに地域展開を進める」よう示されています。鶴ヶ島市でも、昨年度はバスケットボール部で、今年度は剣道部と吹奏楽部で休日の地域展開の実証事業を行う予定です。長い間、歪みがある中で運営され続けたことを解決するには、学校だけでなく、保護者・地域の皆さんの部活動への価値観の転換も必要になります。そして、その仕組みを変えるためには、大英断と、いずれにしても多くの予算確保が必要だと思われます。今後の動向を注視していきたいと思っています。

「生きる力」をはぐくむ

現行の学習指導要領の実施から5年目を迎えています。すでに次の学習指導要領改訂に向けて、中央教育審議会が論議が進められています。「授業時間が45分になる?」「週当たりの授業数が2コマ減る?」「『技術』と『家庭』が別の教科になる?」「教科書のページ数が減る?」等々 様々な情報が断片的に聞こえてきます。この情報過多のご時世、ニュースソースはどこなのかに注意しながら、正確な情報収集に当たりたいと思います。

現行の学習指導要領でも、「『生きる力』をはぐくむ」ということは、以前の学習指導要領の基本理念から引き継がれています。「生きる力」とは「知（確かな学力）・徳（豊かな人間性）・体（体力・健康）のバランスのとれた力」のことです。知・徳・体の具体的な内容や身に付ける方法は時代とともに変化しますが、知・徳・体のバランスの取れた人間を形成することは教育の普遍的な目的ですので、この理念は今後も変わらないと思われま



しかしながら、「この子はこれからの世の中を、生き抜いていけるのだろうか」と心配してしまう生徒が年々増えてきているように感じて仕方ありません。特別の教科・道徳で取り扱う内容項目の1つに「希望と勇気、克己と強い意志」があります。「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」について自分の生き方についての考えを深めます。「己（おのれ）に克（か）つ」とは、「自分の感情や欲望、邪念などに打ち勝つ」ということです。大人でも難しいことで、どうしても易きに流れてしまいがちです。昨今、易きに流れるために便利なものが、どんどん増加しています。生成AIなどの「ITの浸透により、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる」というDX化。自分で退職を申し出ることなく仕事を辞められる「退職代行サービス」等々。（先日、ある校長先生が退職代行サービスから連絡があったと聞き、教員までも…と愕然としました。）

AIの時代であっても、「人の感情」や「創造すること」「倫理的決断」などはAIが不得意な分野なので、人間の力に頼らざるを得ないそうです。どれもこれも、白黒付けがたく、安易な方法もなく、ある意味面倒くさいものばかりです。つまり、面倒くさいことは避けて通れないということになるのだと思います。次代を生き抜くためには、必要な試練なのかもしれません。



主な行事予定

1日(火) 期末テスト(～7/2)
2日(水) 集金日
3日(木) 学校朝会
4日(金) 3年進路説明会
8日(火) 2年社会体験チャレンジ(～7/10)
9日(水) 学年学級の日
11日(金) 非行防止教室
15日(火) 生徒朝会 5時間授業

16日(水) あいさつ運動 5時間授業 給食終了日
17日(木) 大掃除 3時間授業
18日(金) 1学期終業式
23日(火) 夏季面談(～7/31)

8月

28日(木) 2学期始業式 防災訓練
29日(金) 3時間授業

9月

1日(月) 給食開始